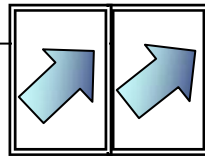


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（6月5日時点）～

国内景況感

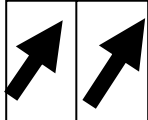
世界的な在庫調整の進展などに伴い、輸出、生産は持ち直している。また、公共投資や個人消費では経済対策の効果も現れることから、景気は持ち直していくと予想される。



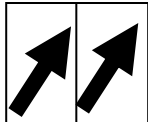
現状 6ヶ月後

(2009年4-6月期) (2009年10-12月期)

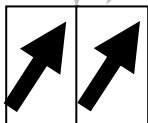
①世界経済



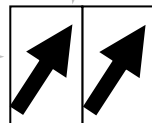
②輸出



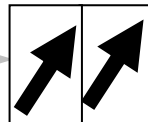
③生産



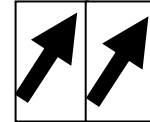
④企業収益



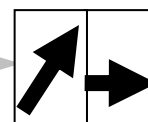
⑤設備投資



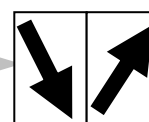
⑨公共投資



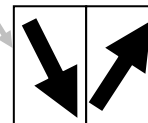
⑦個人消費



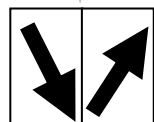
⑥雇用・賃金



⑧住宅投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、当該時点でのモメンタム（景気の勢いが前期より高まる場合は▲、減速する場合は▼）を示す。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・世界景気は、先進国での金融危機の影響拡大を背景に深刻なりセッションに陥っているが、景気刺激策の実施を受け足元で悪化ペースは緩和しており、底打ちの兆しが出始めている。年後半には景気対策により景気は持ち直すものの、金融問題が尾を引き、2009年を通じて力強さに欠けると予想される。 ・米国経済は、信用収縮、マインドの停滞、グローバルな景気低迷等によって、2009年中は回復感に乏しい状況が続くと見込まれる。ただ、大型景気対策の効果が現れる2009年半ばごろにマイナス成長からは脱却しよう。 ・ユーロ圏経済は、信用収縮、低い水準のマインド等が景気回復の障害となることから、2009年を通じて調整局面が続くと予想される。 ・アジア経済は、金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策、世界景気の底打ちを受け、2009年後半に緩やかながらも拡大ペースを速めると予想される。
②輸出	諸外国において在庫調整が進捗していることや、中国での景気対策効果等を受けて、輸出は持ち直している。先行きについても、米国を中心として世界各国で実施されている経済対策の効果が顕在化すると予想されることから、輸出は改善傾向が続くと考えられる。
③生産	生産は世界的な在庫調整の進展や輸出の底入れを背景に持ち直している。先行きについては、輸出の回復や在庫調整の進捗に伴い、生産も持ち直していくと予想される。
④企業収益	海外景気の失速に伴う売上高の減少などを背景に、企業収益は大幅な悪化が続いている。先行きについては、輸出や生産の持ち直しなどに伴って、企業収益の悪化は緩和していくと予想される。
⑤設備投資	企業収益の大幅な悪化に加え、景気低迷に伴って企業の投資意欲が減退していることから、設備投資は大幅に減少している。先行きについては、収益悪化が緩和することなどを受けて、設備投資の減少に歯止めがかかってくると予想される。
⑥雇用・賃金	景気低迷や収益悪化によって企業の人件費抑制圧力が強まっていることから、雇用・所得環境は悪化している。先行きについても、収益悪化の悪影響が続くことなどから、雇用・所得環境も厳しさが続くと予想される。
⑦個人消費	定額給付金の支給やエコカー減税、エコポイントの付与等の政策効果から消費者マインドが改善しており、個人消費も足元で若干持ち直している。もっとも、雇用・所得環境の大幅悪化が続くとみられることから、政策効果が弱まる7-9月期以降には、個人消費は再び弱含む可能性が高い。
⑧住宅投資	雇用・所得環境の弱含みや金融機関の融資態度の厳格化による資金調達難などを受けて、住宅投資は停滞している。先行きについては、購入意欲の回復や各種減税制度の効果などにより、住宅投資の悪化は緩和していくと予想される。
⑨公共投資	経済対策によって公共事業費の積み増しが行われたことから、公共投資も今後は増加基調を辿る見込みである。
⑩物価	石油製品・食料品価格の低下幅が前年比で拡大することに加え、景気悪化に伴う物価下落圧力が強まることから、物価のマイナス幅は夏場にかけて急拡大するだろう。秋以降はマイナス幅が緩やかに縮小すると予想されるが、プラス転化には至らないと思われる。